

令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立下呂特別支援学校

学校番号	118
------	-----

自己評価

学校教育目標	・地域社会で主体的に生活する力を育てる
評価する領域・分野	「教育活動・学習指導」「生徒指導(生徒会)」「進路指導(キャリア教育)」
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒一人一人に合った教材・教具への評価が高かったが、保護者より個々の特性に応じた指導の充実についての指摘があり、職員間での情報共有が課題である。 ・高等部、中学部を中心に体験的な活動に対する評価が高いが、連続する行事に対する負担について生徒からの意見があった。また、近年の異常気象による実施時期の変更や「教師の働き方」という点からも効果的な行事の在り方について再考が課題である。 ・教師の児童生徒への指導に対する熱意や姿勢は評価が高いが、地域への発信という点では、評価が低く課題である。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍に整備した ICT の環境をより効果的に使用し、教材教具の開発を行う。(活用を含む。) ・コロナ禍の3年間の総括から人と関わる活動や体験的な学習の重要性を再認識して地域交流や校外学習、学校行事などの充実を図る。 ・10周年を節目として学校の歩みを地域に発信し、コミュニティースクールとしての地域との結びつきを強める。
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・研修部を中心とした職員研修(研究) ・各部の対外的な行事の再開(校外学習、全校行事) ・生活支援部、キャリア教育部が主体となって行う生徒会活動、総合的な探究の時間 ・各部、分掌ごとによる組織的な10周年記念式典の準備、進行
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・対話的に内容を深める研究の日 ・コロナの5類移行後の各部の対外的な行事の再開 ・生徒会、地域交流(縁Join活動)の充実 ・児童生徒の学びの姿を通して伝える10周年記念式典
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ・個別懇談等での保護者からの意見や感想 ・学校運営協議会や地域等からの意見 ・活動の実施状況や実施後の反省、評価
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・研究の日ではアイスブレイクの時間を取り入れることで、職員の研究への抵抗感を軽減することができた。 ・高等部の縁 join 活動(ふるさと教育)では、多くのイベントに参加し、太鼓演奏を通して地域社会と関わり、地域貢献の意識をもてるよう仕組むことができた。 ・高等部卒業生を招き、講話と対話形式で話を聞くことで、生徒が卒業後の生活に見通しをもつための機会を設定することができた。 ・系統的なキャリア教育の場として高等部の作業製品バザーに小中学部の児童生徒が参加する機会を設定した。 ・外部団体の読み聞かせ活動を定期的実施し、児童生徒は、迫力、臨場感のある読み聞かせを聞き、お話の世界に触れることができた。

	<ul style="list-style-type: none"> 外部団体からの厚意に対して児童の作品や中学部の作業製品をお礼として活用し、外部から評価を得ることができた。そのことが、児童生徒の自信や達成感につながった。 生徒会執行部が、全校児童生徒が楽しめるように主体的に全校集会の内容を企画し、部の枠を超えた交流を実践することができた。 児童生徒が主役として前面に出られるよう、全職員で企画・準備を行い、式典を挙行することができた。
評価の視点	評価
①教員が主体的に研修に参加し、意見を交流している。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C D
②教育的な意義を確認し行事を実行し、今後の在り方を見直している。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C D
③児童生徒の学びを発表する場として、式典を行うことができた。	<input checked="" type="checkbox"/> A B C D
成果・課題	総合評価
<p>○部間で児童生徒の姿を思い浮かべながら話し合うことで、目指す姿や支援方法について共通理解を図るきっかけとなった。</p> <p>○数年ぶりに対外的な行事や全校合同で行う行事が再開されたが、来年度以降の本格的な脱コロナを見据えてその度に反省を行い、来年度の方向性まで検討して申し送っていくことができた。</p> <p>○式典を通して当校のこれまでの歩みや良さを児童生徒、保護者、職員、地域の関係者とともに確認することができた。</p> <p>▲催し物の効果的な案内や実践の報告について、表現方法や手段について工夫する必要があった。</p> <p>▲地域の学校としての意義やこれまでの実践の継続を考え、長期的な視点に立って校内組織の再検討や職員研修を進める必要がある。</p>	A <input checked="" type="checkbox"/> B C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> 校務支援システムの導入に伴い、学習指導要領の内容や解釈について教師間での共通理解がより必要になる。今後も教師集団が対話的に学習内容を設定していく力が培えるような研修を行っていく必要がある。 けやき祭（体育祭）及び湯ヶ峰フェスタ（学校祭）を当校の2大行事として位置づけ、全校児童生徒による交流や学びの成果の発表の場として今後も継続的に取り組んでいけるようにする。他の行事については、教科の内容が横断的に学習できるようにねらいを確認しながら発展的に整理していく。 ネット環境を活用し、保護者がスマートフォンでも見られる状況を充実させる。 当校の通学区分となる地域性や職員の年齢層やキャリアを考慮しながら、次の10年、20年後も継続して学校の役割を担えるような持続可能な組織編制と職員研修を行う。

学校関係者評価（令和6年 2月14日実施）

<p>意見・要望・評価等</p> <ul style="list-style-type: none"> 卒業生を招いて話を聞く機会を設けたことで生徒が具体的に進路について見通しをもてたようでとても良い。保護者にもこうした機会を設けてほしい。 小学部から高等部までのつながりを強く感じる。縦割りの活動をぜひ継続してほしい。 教師の心身面での安定が丁寧な対応につながるので、働き方を見直して教師が心身ともに健康でいることに努めてほしい。 学校での対応は丁寧であるが、卒業後もマンツーマンという状況は難しい。そのことを考慮に入れ、一人でできることを増やしてほしい。
